

河野扶

向うからやってくるもの — 作意を捨てて



赤の侵食 (1999)

2024.2.3sat - 2024.3.3sun

開館時間 | 10:00 ~ 17:00 (入館 16:30 まで)

休館日 | 月曜日 (祝日は除く) 祝日の翌日 (土日は除く)

観覧料 | 大人 300 円 (240 円)

小中高生・高齢者・障がい者 150 円 (120 円)

※()内は20名以上の団体料金またはJAF会員証をご提示の方。高齢者は70歳以上。

障がい者は障がい者手帳所持者とその介護者1名まで。未就学児と高鍋町内の小中高生および特別支援学校生は無料。

主催 | 高鍋町美術館・高鍋町教育委員会・高鍋町

協力 | 東御市梅野記念絵画館

後援 | 宮崎日日新聞社・MRT 宮崎放送・UMK テレビ宮崎・エフエム宮崎

高鍋町美術館
TAKANABE MUSEUM OF ART

「さりげない絵を描きたい。無技巧の技巧。むつかしいことだけれど。」

厚塗りの技法をもとに、キャンパスに絵具を無作為に塗りつけ、乾いては削り、再び塗っては削るという繰返しのなかで、河野は画面から作意が抜け落ち、自分の意志ではなく他の何者かの指示で描かされていると感じる時があることに気づきます。それを河野は「向うからやってくるもの」と語りました。1941年に東京大学を卒業し2002年に亡くなるまで、河野は東京を生活の本拠としたことから、九州に河野の作品は多く残っていません。このたび作家の御遺族と、東御市梅野記念絵画館（長野県）のご協力を得て、宮崎県出身の異色ともいえる画業を貫いたこの画家の、九州では初の初期から晩年までをたどる回顧展を開催します。

河野 扶 かわの・たすく

1913（大正2）年、宮崎県児湯郡美々津町（現・日向市美々津）に生まれる。1930（昭和5）年、高鍋中学校（現・県立高鍋高等学校）を卒業後、有田四郎に師事。1931（昭和6）年から川端画学校に通い、須田国太郎に学ぶ。1941（昭和16）年、東京帝国大学（現・東京大学）理学部数学科を卒業後、民間企業に就職。1945（昭和20）年、教職に転じ、数学の教諭を務める。1970（昭和45）年、教職を辞して渡欧。画業に専念する。2002（平成14）年、東京都内にて没。



赤い屋根（シャルトル水辺）（1972）



モニュメント（1984）

関連イベント

講演会 「向うからやってくるもの」 — 河野扶の芸術

2024年2月23日（金・祝）14:00～15:30

講師：大竹 永明氏（東御市梅野記念絵画館 館長）

会場：高鍋町美術館 多目的ホール 定員：100名

参加無料・電話予約が必要

ワークショップ “壁のような絵を描く”

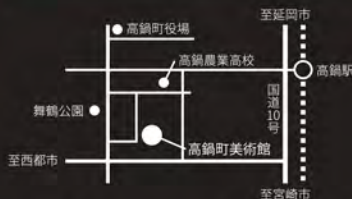
2024年3月3日（日）10:30～12:00

会場：高鍋町美術館 実習室 対象：小学生

参加無料・電話予約が必要 定員：8名



オレランの寺（制作年不詳）



交通案内

タクシー：JR 高鍋駅から約10分
バス：JR 高鍋駅から宮崎交通バス「一丁田經由西都行き」で「舞鶴公園前」下車徒歩3分または「褒崎」下車徒歩1分



写真撮影 OK

フラッシュはご遠慮ください

高鍋町美術館
TAKANABE MUSEUM OF ART

宮崎県児湯郡高鍋町南高鍋6916番地1
TEL:0983-23-8887 FAX:0983-23-8890

